

～ A B I (足関節/上腕血圧比) について～

今回は血管の詰まりの指標である、A B I 検査についてお話いたします。

情報提供: **FUKUDA COLIN**

血管の変化(詰まり・硬さ)は臓器障害の始まり

虚血性心疾患や脳出血などの臓器障害は、全死因の約3割をしめており、その原因は血管の障害です。

危険因子

高血圧・高血糖
脂質異常・肥満
喫煙・飲酒

血管の変化

臓器障害

脳出血・脳梗塞
狭心症・心筋梗塞
末梢動脈疾患

無自覚で潜在的に進行します

生活の質が低下します

定期的な血管のチェックが大切

動脈の詰まりを見る検査・・・A B I 検査とは

$$A B I = \frac{\text{足首の最高血圧}}{\text{上腕の最高血圧}}$$

(Ankle Brachial Pressure Index)

通常、健常人では足首の血圧の方が上腕の血圧よりやや高い値になります。A B I 値が低いほど、足の動脈の狭窄の可能性が高くなります。また、心臓や脳といった他の臓器障害のリスクが大きくなります。

ABI 基準値	0.9	1.0	1.4
足の血管の狭窄・閉塞の可能性	境界域	正常	血管壁の石灰化

どうやって検査するの・・・A B I 検査の方法

- 仰向けに寝た状態で両足首と両上腕の血圧を同時に測定していきます。
- 測定時間は約2～3分です。
- 締め付けの強いもの(コルセット・ガードル・着圧ソックスなど)は外しています。



【症例】末梢動脈疾患(PAD)の診断と治療

患者 : 70才代 男性 既往歴 : 糖尿病、高血圧
症状 : 200~300m 歩くと両足とも痛みが出現(特に右足)。右かかとに潰瘍あり。

ABI 検査

右 ABI : 0.28

左 ABI : 0.58

➡ (結果)両側ともABI値が低下しているため狭窄・閉塞が疑われた

その他の検査

以下の検査を患者さんの状態に応じて追加し
より詳しく下肢の血管の状態を検査し総合的に診断。

- 下肢動脈超音波検査
- 造影 CT 検査 ➡ (結果)両浅大腿動脈の高度狭窄・閉塞を認めた
- MRI 検査 右膝下の血管に高度狭窄・閉塞を認めた
- 皮膚灌流圧(SPP)検査 : 皮膚表面の細い血管の流れを見る検査

末梢血管内治療:EVT 施行

EVT : 末梢血管の疾患にカテーテルを使用して、血栓吸引や血管の拡張、
ステントの留置などを行う治療

➡ (結果)右浅大腿動脈にステントを留置し血流を確認

治療後のABI 検査

右 ABI : 0.91

左 ABI : 0.72

➡ (結果)右ABI値は改善している

治療後の経過

右足の症状は改善し、かかとの潰瘍も治癒した。その後左足にもEVTを施行した。
定期的にABI検査を行い、経過観察となる。

症状のある方は医師にご相談ください。

なお東芝病院総合健診センターでもABI検査を始めました。

ご希望の方は是非どうぞ。